

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること、数学では、データやグラフから、必要な情報を適切に読み取ることや数学的な表現を用いて説明すること、英語では、リスニングと、英作文の平均正答率が低い。  
 ○「生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、授業については、分かると回答している生徒でも、得意であるかの質問に関しては、得意ではないと回答していることが多い。家庭学習の時間が、都平均よりも少なく、自分で計画を立てて学習している生徒の割合も少ない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○生徒が主体的にめあてを達成するために、学習過程の見通しをもたせ、学習計画を立てさせることが必要である。  
 ○対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげるために、生徒一人ひとりの考えを友達同士で交流する場面を増やす必要がある。  
 ○授業の振り返りの時間を必ず確保し、学んだことをOUTPUTする記述をさせる。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区 授業スタンダード」に基づいた指導を展開し、「ねらい」「流れ」を明確にするとともに必ず「振り返り」の活動を行い、基礎的・基本的な学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。  
 ○生徒が知識・技能を習得し、習得した知識を活用して考える力、表現し伝える力を育むために、問題解決型・探究型の学習活動を重視し、児童が主体的に学習に取り組めるよう授業改善を進める。  
 ○生徒一人ひとりが自分の考えを友達に伝え、友達の意見を取り入れ、相互に意見交流をしながらよりよい考えを能動的に作り出す協働学習を推進する。  
 ○数学において少人数習熟度別授業を行って、個に応じたきめ細やかな指導に努める。  
 ○一人一台端末の活用や授業方法の工夫について、校内研修や研究授業を実施し、積極的活用を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○INPUT→THINK→OUTPUTが授業の中に設定する。特に子どもが主体的にOUTPUTする場面を設定する。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。RSTの結果を分析し、文章の読解に必要な力の苦手な部分を把握し、つまづきに応じた指導の工夫を行う。	○総合的な学習の時間では、物事を多面的・多角的に考える視点を大事にし、各教科で学んだことを生かす場面とする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「キャリア教育」や「環境教育」では、小中で同じテーマを扱うことで、発達段階に応じて次第に考えや理解が深まっていくように設定をする。 ○読み解く力を高めさせ、全教科を通して言語活動を充実し、思考力・判断力・表現力を育成する。	○総合的な学習の時間では、生徒の発達段階や教科の学習内容に合わせ、7学年・8学年では「環境教育」、9学年では「キャリア教育」を中心に、全学年で「郷土愛の育成」「読み解く力の育成」に重点を置き、カリキュラムを編成する。	○生徒の一人一台端末を、生徒同士が考えを交流する場として活用したり、発表資料を協力して作成する場として活用したりすることで、協働的な学びを実現する。また、ミライシードを活用し、生徒一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度に応じて学べる時間を設定する。さらには、授業の振り返りを一人一台端末で行い、生徒の変容を把握しやすくすることで、授業改善につなげる。